

令和3年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業報告書

【事業総括】

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。

アクアマリンふくしまの入館者数は、県内でまん延防止等重点措置が講じられたことにより、8月7日から9月30日まで臨時休館となったのをはじめ、年明け以降のオミクロン株の感染拡大などにより、昨年度(339,855人)を下回る335,538人となり、大震災のあった平成23年度に次いで、開館以来、2番目に少ない結果となりました。

いなわしろカワセミ水族館の入館者数は、臨時休館の措置は講じず、昨年度(49,856人)を上回る55,793人となったものの、コロナ禍前の平成30年度(72,174人)の77.3%にとどまる結果となりました。

このようにコロナによる厳しい経営環境が続きましたが、7月6日に就任した古川理事長の下、新たな体制で、職員一人一人がこれまでに培ったノウハウを生かしつつ、従来のやり方にとらわれない柔軟な発想を持ち、創意工夫をしながら各種事業に取り組んだところであり、その主な内容は下記のとおりとなります。

記

<アクアマリンふくしま>

- 1 4月26日、福島県野生生物共生センターから県内で保護されたホンドフクロウ2羽を譲り受け、展示を開始しました。
- 2 6月27日、オンラインとリアル(来場)の二つの方法で、飼育職員のこだわりの調査・研究活動等の紹介を通して生物の不思議さや面白さを広く参加者に伝える、「海の学びハイブリッドゼミ『アクアマリン・アカデミートーク』」を開催しました(以降、計3回開催)。
 - ・第1回(6/27) 卵・稚魚の生存戦略～君はリュウグウノツカイの卵を見たことがあるか～
 - ・第2回(9/4) 新種の宝庫！知床の海～クリオネだけじゃもったいない～
*臨時休館中であったため、オンラインでのみ開催
 - ・第3回(12/11) ラブカの秘密～謎だらけ 深海ザメの生態に迫る～
- 3 7月11日、いわき芸術文化交流館アリオスと連携し、当館の「潮目の海(大水槽)」前で、サクソプレイヤーグループによる「SOU☆四重奏ミニコンサート」を開催しました。
- 4 7月15日から、福島県の漁業をテーマに、体験コーナーや生きた魚などの展示を組み合わせ、遊びながら学ぶ企画展「アクアマリンこども魚市場」をオープンしました(令和4年5月8日まで開催)。
- 5 10月15日、他の施設では淡水を使った展示がされているマングローブオオトカゲについて、日本で初めて、実際の生息環境に近い海水での展示を開始しました。
- 6 11月26日、キタオットセイ2頭の展示を開始するとともに、海洋プラスチックごみ問題に関心を持っていただくため、当財団が行ってきたオットセイの保護活動を紹介するコーナーを新たに設けました。

- 7 12月6日、当財団職員への企画募集に基づく、新たな展示コーナーの工事に着手しました。
 - ・展示コーナー名 : えっぐの森どうぶつごっこ
 - ・展示内容 : 日本産野生動物の展示とともに、動物の動きにチャレンジできる遊具を備えた野外エリア。遊びを通して動物たちが森で暮らすためにいかに高い能力を持っているかを体感しつつ生態を学ぶことができるコーナー。
 - ・オープン日 : 令和4年4月26日
- 8 1月13日、羅臼沖で収集し、新種公表した「ホカケコオリカジカ」の展示を世界で初めて行いました。
- 9 2月1日、幻の魚といわれるカンテンゲの展示を日本で初めて行いました。これは、北海道東沖で採集したコンゴウアナゴから吐き出された直径1 cmほどの大型の卵を持ち帰り、生まれた稚魚を半年間育成しところ、カンテンゲと判明したものです。
- 10 2月25日、オセアニックギャラリーに、海洋プラスチック問題について紹介する新コーナー「海にあふれるプラスチックごみ」を開設しました。
- 11 3月9日、公益社団法人日本動物園水族館協会から、当館で繁殖した生物6種が、初繁殖として認定されました。令和3年度は、全国の園館から34種が認定されましたが、当館は最も多い数の認定となりました。なお、これまでに31種が初繁殖として認定されています。
 - ・初繁殖認定された生物 : コクラゲ、マーブルマウスフロッグフィッシュ、アオビクニン、ヒガシナメクジウオ、ヤエヤマノコギリハゼ、サルシアクラゲ

<いनावしろカワセミ水族館>

- 1 7月27日、環境省の補助事業を活用し、南西諸島に生息する種の保存法指定種であるフチトリゲンゴロウの生息域外保全事業(三か年計画事業)を開始しました。
- 2 9月1日と3日の2日間、知的障がいのある子どもたちが学んでいる福島県立会津支援学校を対象に、オンラインによる事前授業と、来館しての館内学習を行いました。
- 3 12月27日、猪苗代湖で発見された新種「バンダイホソガムシ」の展示を開始しました。
- 4 1月4日、ニセコウベツブゲンゴロウ及び当財団職員が発見したヒラサワツブゲンゴロウの福島県における分布状況を調査した結果が、日本甲虫学会発行誌に掲載されました。
- 5 3月2日、水槽内で産卵、育成したトウキョウサンショウウオの展示を開始しました。

【事業内容】

I 公益目的事業

1 飼育展示事業

(1) 水槽展示及び生物の飼育状況

令和3年度末時点での展示は以下のとおりです。

① 水槽数

本館		113槽
BIOBIOかっぱの里		1槽
蛇の目ビーチ		1槽
わくわく里山・縄文の里		2槽
アクアマリンえっぐ		28槽
金魚館		8槽
合計		153槽

② 生物の飼育状況

哺乳類	16種		102点
鳥類	6種		28点
爬虫類	9種		13点
両生類	11種		496点
魚類	420種	35,	721点
昆虫	12種		152点
無脊椎	301種	9,	254点
植物	500種	約20,	000点
金魚	61品種		882点
合計	1275種	65,	766点
	61品種		882点

(2) 生物収集事業

展示生物(水生生物、陸上小動物及び植物)採集、購入、輸送

① 淡水生物採集

オイカワ、イトヨ他県内生物採集・熱帯生物の購入

② 沿岸生物採集

福島県水産海洋研究センター調査船乗船採集、(深海生物)

福島県松川浦採集・小名浜サンマリーナ アマモ、ギンボ類他を採集

③ 北方系生物採集:北海道オホーツク海沿岸

ニュードウカジカ、ハダカカメガイ、ナメダング等の冷水系生物を採集

④ 南方系生物採集

マイワシ、バショウカジキ、ギンカガミを採集

⑤ サンゴ礁、マングローブ生物収集

クマササハナムロ、チンアナゴ他熱帯魚、コモチサヨリ等を採集

⑥ 植物:県内採集でシュンラン等・ラン(購入)

⑦ ユーラシアカワウソ1頭をよこはま動物園ズーラシアへ搬出

⑧ 新展示「えっぐの森どうぶつごっこ」生物

ニホンリス、ホンドテン他を井の頭自然文化園、富山ファミリーパーク、油壺マリンパークより搬入

- (3) 南方系生物蓄養事業
スマ、ヤシヤカマスを蓄養・輸送・搬入（串本）
- (4) 水生生物保全センター運営事業
 - ① 浮遊卵の採集、研究（串本分館）
 - ② シナイモツゴ、ゲンゴロウ等の繁殖研究
 - ③ 駿河湾ROV調査
 - ④ サンマやラブカ他の飼育調査研究
- (5) 飼育生物管理事業
本館、えっぐ、水生生物保全センター、屋外施設の動植物展示及び飼育管理

2 移動水族館事業

主催者要請に応じ、移動水族館専用車（通称：アクアラバン）を派遣し、各地域のイベントや県内外の文化施設のイベントに出展。

海の生物に親しむ機会を提供し、当館への興味、関心を高めてもらうこと（営業・PR活動・広報宣伝）と併せて、開催地の地域振興（地域交流）に貢献。

出展回数 8回（令和2年度対比 160.0% 3回増）

見学者数 5,371人（令和2年度対比 114.6% 686人増）

3 研究交流事業

(1) 学術論文

- ・ Morphological development of laboratory-reared *Crystallichthys matsushimae* (Cottoidei: Liparidae)
松崎、森、甲斐、平
- ・ *Icelus hypselopterus*, a new cottid from the southern Sea of Okhotsk
古澤、森、松崎、甲斐
- ・ 常磐・三陸沿岸からのモガニ属2種（甲殻亜門，十脚目，モガニ科）の新産地記録
大土、日比野、河野
- ・ Contrasting gut microbiota in captive Eurasian otters (*Lutra lutra*) by age
Yumiko Okamoto, Natsumi Ichinohe, Cheolwoon Woo, Sung-Yong Han, Chiho Nakamura, Sakura Ito, Junpei Kumura, Kentaro Nagaoka & Naomichi Yamamoto

(2) 学会発表

- ・ Induction of Natural Nursing Behavior in Eurasian otters through Recreation of Wild Habitat in the Exhibition Enclosure」
中村
- ・ Balancing Environmental Enrichment and Health Management by Cooperative Husbandry for Eurasian otter
中村

- ・ユーラシアカワウソの音声コミュニケーションに関する基礎研究
中村
- ・ダーリアイソギンチャクの内部構造から推測される行動様式
武藤弾（東邦大院・理）・山内信弥（アクアマリンふくしま）・大越健
嗣・（東邦大院・理）

4 海洋文化推進事業

シーラカンス保全プロジェクト

新型コロナウイルス感染症流行のため活動中断

5 企画営業事業

(1) 企画管理事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポート販売等（来館者サービスの向上）

①券売・受付業務委託

券売・改札業務（専門業者委託で接客の質向上）

②年間パスポート販売

- ・入館者数の増加を目的に販売
- ・通常販売、福島県子育て応援パスポート事業（協賛）の割引販売やプレゼント等の実施
- ・販売実績

一般	3,944枚	（令和2年度対比	89.0%	488枚減）
小～高	875枚	（令和2年度対比	63.0%	513枚減）
計	4,819枚	（令和2年度対比	82.8%	1,001枚減）

(2) 広報宣伝事業

県内外に当館の魅力を一層アピールしながらイベント開催告知、誘客促進を行うとともに、首都圏も含め各種媒体で積極的な広報宣伝活動を展開し、パブリシティによる紹介の増加を図った。

①各種媒体等を活用した広報

ア テレビ

CM放送

通年（臨時休館期間を除く）天気フィラー：県内1局

GW向け：県内4局、宮城2局 年末年始向け：県内1局

春休み向け：県内4局 宮城2局

イ 新聞

地元3紙へGW、クリスマス、春等の観光シーズンに広告掲載。

ウ 雑誌・フリーペーパー等広告

企画展およびイベントの告知のため情報及び広告掲載

エ 看板

福島空港に広報看板掲出、辰巳町交差点に看板掲出

オ Web

SNSを活用した情報発信

カ その他

テレビ番組、Webメディアへの情報、素材提供
福島県広報枠を活用した広報（マスメディア、SNS、ポスター掲出）

②ポスター・パンフレット等の作成・活用

ア 館内案内リーフレット

- ・館内案内リーフレットを来館者に配布
- ・県内外観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布

イ イベントチラシ・ポスター

- ・「えっぐの森どうぶつごっこ」の告知、その他企画展やイベント開催に合わせ、チラシ、ポスターを作成、県内外の公共施設、観光施設等に配布、掲出

ウ 広報用チラシの作成

- ・年間を通した広報用にチラシを制作
- ・館内および移動水族館用にファミリー向けリーフレットを制作

③広報イベントの実施

広報を目的としたイベントの実施

ア ゴマファザラシ名前投票

4月17日（土）～4月30日（金）

令和3年3月23日（火）に誕生したゴマファザラシの名前の候補を4つ挙げ、一般投票を行い「だいふく」に決定した。

イ 入館者1,500万人達成セレモニー

7月18日（日）

④メディア連携企画

海洋環境や文化について発信する企画を共同で実施。

- ・「海とさかな」自由研究作品コンクール オンラインイベント（主催：朝日新聞、朝日小学生新聞社）7月18日（日）
- ・海なぞ（主催：海なぞ実行委員会、日本財団）LINE 謎解き 10月
- ・「オットセイと考える海のプラスチックゴミ」（ふくしま海ゴミ削減プロジェクト実行委員会）11月6日（土）

(3) 観光誘致事業

① 地元旅館ホテル等の販売実績

ア 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット（地域連携チケット）

- ・いわき市周辺の契約宿泊施設等限定の入館券を販売
- ・契約宿泊施設等・・・12か所（2組合、1グループ、9施設）

一般	8,444枚	（令和2年度対比	86.5%	1,316枚減）
小～高	2,008枚	（令和2年度対比	100.1%	4枚増）
計	10,452枚	（令和2年度対比	88.8%	1,312枚減）

イ 入館前売券販売

一般	3,272枚	（令和2年度対比	55.6%	2,614枚減）
小～高	691枚	（令和2年度対比	66.1%	355枚減）
計	3,963枚	（令和2年度対比	57.2%	2,969枚減）

② 送客実績

ア 個人(通常料金)

一般	108,158人	(令和2年度対比	91.5%	10,011人減)
小～高	22,149人	(令和2年度対比	102.7%	576人増)
計	130,307人	(令和2年度対比	93.2%	9,435人減)

イ 団体(団体料金)

件数	86件	(令和2年度対比	72.9%	32件減)
----	-----	----------	-------	-------

一般	765人	(令和2年度対比	61.7%	475人減)
小～高	392人	(令和2年度対比	19.6%	1,613人減)
計	1,157人	(令和2年度対比	35.7%	2,088人減)

ウ 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)

一般	8,216人	(令和2年度対比	85.4%	1,402人減)
小～高	2,032人	(令和2年度対比	100.6%	13人増)
計	10,248人	(令和2年度対比	88.1%	1,389人減)

エ 入館前売券

一般	3,552人	(令和2年度対比	77.0%	1,061人減)
小～高	724人	(令和2年度対比	79.3%	189人減)
計	4,276人	(令和2年度対比	77.4%	1,250人減)

オ 年間パスポート

一般	26,962人	(令和2年度対比	108.2%	2,033人増)
小～高	4,323人	(令和2年度対比	120.8%	744人増)
計	31,285人	(令和2年度対比	109.7%	2,777人増)

カ 年間パスポートの提示割引

・当館の年間パスポートの提示で割引

(1枚の提示で5名まで 一般200円引 小～高100円引)

一般	1,719人	(令和2年度対比	113.2%	200人増)
小～高	455人	(令和2年度対比	119.1%	73人増)
計	2,174人	(令和2年度対比	114.4%	273人増)

キ 障がい者

一般	5,312人	(令和2年度対比	86.8%	808人減)
小～高	1,007人	(令和2年度対比	101.9%	19人増)
計	6,319人	(令和2年度対比	88.9%	789人減)

③ 減免入館実績

ア 学校団体

件数	689件	(令和2年度対比	122.6%	127件増)
人数	41,157人	(令和2年度対比	139.7%	11,706人増)

イ 幼稚園又は保育園団体

件数	70件	(令和2年度対比	69.3%	31件減)
人数	462人	(令和2年度対比	86.5%	72人減)

※人数には、園児の数は含まない

ウ 市町村主催団体

件数	4件	(令和2年度対比	40.0%	6件減)
人数	33人	(令和2年度対比	22.4%	114人減)

エ 財団主催団体

件数 1件 (令和2年度対比 150.0% 2件減)
人数 19人 (令和2年度対比 22.6% 65人減)

④ コンビニチケット

・コンビニチケット全体の入館者数
5,425人 (= 2,761人 + 2,664人)
(令和2年度対比 76.8% 1,639人減)

ア 通常チケット(販売額 一般1,750円 小～高850円 通年販売)

一般 1,930人 (令和2年度対比 39.9% 2,913人減)
小～高 831人 (令和2年度対比 58.9% 580人減)
計 2,761人 (令和2年度対比 44.1% 3493人減)

イ ラブカップルチケット

(一般2人分のペアチケット3,500円 期間限定販売)
ペア券 1,332枚 (令和2年度対比 328.9% 927枚増)
人数 2,664人 (令和2年度対比 328.9% 1,854人増)

⑤ 助成券利用実績

・助成券全体の入館者数は622人
(令和2年度対比 82.4% 133人減)

ア 福島県職員助成券

一般 219人 (令和2年度対比 88.0% 30人減)
小～高 33人 (令和2年度対比 70.2% 14人減)
計 252人 (令和2年度対比 85.1% 44人減)

イ 福島県教職員助成券

一般 179人 (令和2年度対比 82.5% 38人減)
小～高 57人 (令和2年度対比 81.4% 13人減)
計 236人 (令和2年度対比 82.2% 51人減)

ウ 私学職員助成券

一般 100人 (令和2年度対比 80.0% 25人減)
小～高 34人 (令和2年度対比 94.4% 2人減)
計 134人 (令和2年度対比 83.2% 27人減)

エ 山形利用補助券

一般 0人 (令和2年度対比 % 6人減)
小～高 0人 (令和2年度対比 % 5人減)
計 0人 (令和2年度対比 % 11人減)

⑥ 電子チケット

一般 2,269人 (令和2年度対比 92.6% 182人減)
小～高 482人 (令和2年度対比 86.1% 78人減)
計 2,751人 (令和2年度対比 91.4% 260人減)

(4) 地域交流事業

積極的に周辺地域と交流を深め地域振興に貢献した。

- ① 小名浜まちづくり市民会議へ参画
会員として会議やイベントに積極的に参画
- ② 小名浜港まつりへの協賛
新型コロナウイルス感染症流行のため小名浜港まつりは中止

- ③ ばんえつ発見の旅サポートの連携事業
 - ・磐越道沿線の12文化施設との連絡協議会は中止
 - ・各館共通割引券作成は中止（令和元年度は、当館では772枚の利用）
- ④ いわき ら・ら・ミュウ、小名浜美食ホテル、イオンモールとの連携
 - ・毎月1回、上記担当者との協議会を開催
- ⑤ 委託販売（いわき ら・ら・ミュウ）
 - ・入館前売券を、いわきら・ら・ミュウ内インフォメーションにて委託販売

一般	709枚	（令和2年度対比	48.5%	752枚減）
小～高	148枚	（令和2年度対比	59.2%	102枚減）
計	857枚	（令和2年度対比	50.1%	853枚減）
- ⑥ 近隣動物園・水族館との連携
 - 栃木・茨城・群馬・福島動物園・水族館との連携事業「ファイト10」にて、オンラインイベントや周年イベントを実施
- ⑦ 公共施設との連携
 - いわき芸術文化交流館アリオスと連携し、当館ではコンサートを、アリオスでは安部館長（当時）の魚のイラスト展、移動水族館を実施

6 学習交流事業

（1）解説活動事業

一般来館者を対象とした解説活動は感染症対策のため休止（R2.3.7～）。好評を得ているバックヤードツアーは、紹介パネルの掲出で補完した。

（2）企画展開催事業

館内外における季節演出および催事等の実施

- ① 海の学びハイブリッドゼミ アクアマリン・アカデミートーク 第1回
「卵・稚魚の生存戦略～君はリュウグウノツカイの卵を見たことがあるか～」
6月27日（日）
いわきサンマリーナ、マリンシアターから中継をしながら、卵や稚魚について解説。オフライン40名、オンライン52名参加。
- ② 七夕まつり
7月3日（土）～8月6日（金）
アクアマリンふくしまの展示生物をモチーフにした七夕飾りの展示
- ③ 生き物放流会
7月22日（木・祝）
海の日にちなみ、蛇の目ビーチに生き物を放流。
- ④ 企画展「アクアマリンこども魚市場」
7月15日（木）～令和4年5月8日（日）
福島の漁業をテーマに「遊びながら学ぶ」をコンセプトとした、体験と生きた魚の展示を通して漁業について学ぶことができる企画展。期間中は、体験イベントを実施。

- ⑤ 海の学びハイブリッドゼミ アクアマリン・アカデミートーク 第2回
「新種の宝庫！知床の海〜クリオネだけじゃもったいない〜」
9月4日（土）
知床羅臼と中継を結びながら新種発見などについて紹介。臨時休館中のため、オンラインのみで実施。29名参加。
- ⑥ 小名浜国際環境芸術祭2021
小名浜国際環境芸術祭は、2003年に開催されてから18回目を迎えた。大漁旗アート展を中心に、海をテーマとした様々な芸術作品を展示した。
- 第14回小名浜国際大漁旗アート展
期間：10月9日（土）～11月23日（火・祝）
 - 海からの贈り物/シーボーンアート展 美しい海を未来に！
協力：NPO 日本渚の美術協会
期間：10月1日（金）～11月18日（木）
 - 第46回福島県児童・生徒木工工作コンクール作品展
主催：福島県木材青壮年協会、福島県木材協同組合、福島民報社
期間：10月1日（金）～10月17日（日）
 - 第49回我ら海の子展（巡回絵画展）
主催：一般財団法人サークルクラブ協会 公益社団法人日本海洋少年団連盟
期間：10月7日（木）～11月14日（日）
 - キッズアート展 「プラごみアート」
期間：10月9日（土）～11月28日（日）
 - ライトアート「Moon's 小名浜の月」
期間：10月16日（土）～令和4年1月23日（日）
 - 俳句の季（とき）コンテスト
期間：10月23日（土）～11月21日（日）
 - 海の男の盆栽展
協力：小名浜盆栽研究会
期間：10月30日（土）～11月3日（水・祝）
- ⑦ 金魚まつり
11月13日（土）、14日（日）
休館のため夏休みに開催できなかった金魚すくいと金魚即売会を実施。
- ⑧ アクアマリンクリスマス
開催期間：11月20日（土）～12月25日（土）
クリスマスツリーとイルミネーションの点灯。12月24日、25日は開館時間を延長し、新企画プロジェクション・アクアリウムを実施。

- ⑨ 海の学びハイブリッドゼミ アクアマリン・アカデミートーク 第3回
「ラブカの秘密 ～謎だらけ 深海ザメの生態に迫る～」

12月11日（土）

東海大学海洋科学博物館と中継を結びながらラブカについて紹介。オフライン90名、オンライン56名参加。

- ⑩ アクアマリンのお正月

開催期間：12月27日（月）～令和4年1月10日（月・祝）

干支の生き物展～寅～トラザメタッチプール等実施。

- ⑪ アクアマリンのひな祭り

令和4年2月11日（金・祝）～3月3日（木）

ちりめん細工教室「ままや」製作のつるし飾りの展示

- ⑫ アクアマリンイースター

令和4年3月19日（土）～5月8日（日）

ラビットフィッシュと卵にちなんだ展示、桜金魚の展示

（3）展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

- ① 放射線に対する基礎的な情報や館内の環境放射線量、海水中の放射性物質などの情報を提供するとともに、当館が行っている調査研究について展示を行った。
- ② オセアニックギャラリーでは「いわき七浜捕鯨文化」「漁場から食卓まで」「あぶくま東縁の地質生物」「弁財天ウナギプロジェクト」「地球環境の保全活動」「よみがえれ木戸川」（令和4年2月15日で終了）「海にあふれるプラスチックごみ」（令和4年2月25日～）「採集する。研究する。展示する。」について展示した。
- ③ コロナの影響により、一部の体験コーナー等の利用を停止した。
- ④ オホーツクの海では、新種発表した生物等の世界初展示を行った。
- ⑤ えっぐにおいてウミウに代わり、キタオットセイの展示を開始した。
- ⑥ 本館入口前に縄文柴犬の犬舎及び運動場を設置した。
- ⑦ 「たろうがま」において炭焼きを行った。

（4）学校教育関連事業

学校を対象とした教育活動は、コロナ禍によって受入れ人数の制限や受入れ休止の措置をとったため、実施回数や対象人数は大幅に減少したが、感染症対策を施して可能な限りの対応を行なった。

- ① ガイダンス・館内学習

来館した学校団体を対象に、施設の展示概要を紹介するガイダンスを実施した。また、来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習などを実施した。

（78回実施、対象者数4,434名）

- ② 館外学習（ゲストティーチャー）
当財団の職員を学校や施設へ派遣し、授業を行った。
（24校、対象者1,077名、1社、親子13組）
- ③ 移動水族館の実施
移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察と、標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、レクチャーを行う移動水族館を実施した。（10校、対象者数806名）
- ④ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習、社会教育実習、社会体験研修の実施
中学校、高等学校、大学の生徒・学生、教員を対象に、業務体験をととして職業観・労働観の習得や進路指導の一環を目的とした実習や社会体験研修を実施した。なお、インターンシップ、博物館学芸員実習はコロナウィルス感染拡大のため中止となった。
- ア 大学生（社会人）の社会教育実習（2日間実施 対象者数1名）
イ 教員の社会体験研修（2日間実施 対象教員数1名）
ウ 教員の社会体験研修（1日間実施 対象教員数2名）
エ 職場体験（研究職見学）（1回実施 対象生徒数24名）
- ⑤ 館内学習支援事業
いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。（9回実施、対象者数202名）
いわき市外の小学校を対象に借り上げたバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。（3回実施、対象者数80名）
- ⑥ 教員セミナー、教員研修の実施
8月に2日間、県内の教員を集めて、教科書に掲載されている漁業についての講義を行う教職員セミナー開催し、28名が参加した。
- (5) 情報提供事業
- ① 情報コーナー
情報コーナーでは、国内外の友好園館の展示を行った。
- ② インターネットによる情報提供
ホームページを更新することにより、様々な情報提供を行った。最新生き物情報欄では生物の搬入搬出や繁殖出産の情報を、ニュース欄では季節ごとのイベントや企画展の詳細、参加体験プログラムの募集等の情報を発信した。
また、SNSを活用して、生き物の搬入や新規展示、生き物の様子など展示生物に関する情報のほか、イベントの実施状況など、タイムリーな情報提供をほぼ毎日行った。
- ③ 機関誌の発行
水族館の活動内容をはじめ、生物や海に関する様々な情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年4回発行した（発行部数4,500部/回）。
- ④ 『アクアマリンふくしま開館20周年記念寄稿文集“つぶやき”TSUBUYAKI』の発行
安部前館長主導により、安部前館長が個人的交友関係のある水族館関係者等に依頼し、ご寄稿いただいた開館20周年への祝辞を編集した寄稿文集を発行した（300部）。

⑤ プレスリリース

テレビ、雑誌等の取材協力を積極的に行うとともに、年間65件の投げ込みを実施した（※荒天、新型コロナウイルスによるイベント中止及び臨時休館の案内は7件）。テレビの取材放映が約110件、新聞の掲載は約270件あった。

7 スクール開催事業

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

(1) スクールの開催

事前募集を行った参加者を対象として様々な体験活動を提供するスクールを開催した。コロナ禍のため、川や海など屋外で行うプログラム以外は、自宅で体験できるオンラインを利用したプログラムを実施した。例年人気の高い宿泊プログラムは新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

・キッズプログラム：18回202名

(2) 缶詰づくり体験ほか

館内での体験プログラムは、感染症対策を考慮し密を避けて実施できる缶詰づくり体験、エサやり体験等を実施した。

(3) 釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の機会を提供した。感染症対策のため同時に参加できる人数を制限し、調理体験は密を避けるため中止とした。（参加者数8,778組）

8 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進し、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。活動に際しては感染症予防に配慮し、規定活動時間の短縮や規定回数の免除など、コロナ禍においても無理なく活動できる体制をとり、例年実施してきた技術向上のための研修は見送りとした。なお、令和2年度は中止した新規ボランティア募集を、令和3年度は実施した。

第1期～第22期ボランティア更新者	149名
第23期新規ボランティア登録者	13名
登録者数(令和4年3月31日現在)	162名

9 施設管理事業

(1) 工事関係

- ① 経年劣化により脱落したDPGガラスのボルトナットの点検を行い、必要部分の交換を行った。
- ② 経年劣化により破損した縄文管理棟及び蛇の目ビーチサービスヤードの扉を更新した。
- ③ 縄文管理棟入口に視覚障がい者用誘導プレートを新設した。
- ④ 経年劣化により使用不能となった連結送水管の新設を行った。

(2) 省エネルギー・光熱費対策

電力需給業者の入札を行い、電力使用料基本料金の低減を図った。

(3) その他

- ① 酸素欠乏・硫化水素危険作業に対応するため、空気呼吸器及びエアラインマスクを配備するとともに、職員に対し法令に基づき特別教育を実施した。
- ② 新型コロナウイルスによる休館期間を利用し、館内各所の塗装劣化部分の補修を行った。
- ③ 産業廃棄物の分別をさらに徹底し処分費の低減を図るとともに、水生生物保全センターの施設内及びサービスヤードの整備を行い、整理整頓に努めた。

(4) 主要維持管理施設

主要維持管理施設は、次のとおり。

① いわき市小名浜字辰巳町地内

ア ふくしま海洋科学館

・本館等敷地面積	56,189.52	m ²
・本館延床面積	12,935.11	m ²
・水生生物保全センター延床面積	925.09	m ²
・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,266.70	m ²
・屋外トイレ面積	106.18	m ²
・温室面積	52.54	m ²
・わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積	1,509.56	m ²

イ 駐車場関係

・施設外駐車场面積	12,093.81	m ²
-----------	-----------	----------------

② いわき市小名浜下神白字松下地内

ア 海水取水・送水施設

・取水ポンプ棟延床面積	1棟	84.43	m ²
・ろ過送水棟延床面積	1棟	180.04	m ²
・取水管(管径 350mm)		91.10	m×2条
・揚水管(管径 300/350mm)		146.00	m
・送水管(管径 250mm)		2,885.04	m

③ 和歌山県串本町

ア 水生生物保全センター分館

・延床面積	180.00	m ²
-------	--------	----------------

(5) 来館者用駐車場の確保

繁忙期に臨時駐車場を確保し、安全かつスムーズな整理誘導を行った。

駐車場は次のとおりである。

① 常時使用駐車場

- ・オアシス駐車場 282台(うち身障者用5台、バス15台)
- ・公共駐車場 452台(うち身障者用17台)

② 臨時駐車場 977台(小名浜港湾建設事務所から随時借用する)

* 駐車場合計 1,711台

10 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業

猪苗代町緑の村管理センター、釣堀・養魚鑑賞池、淡水魚館の3施設の総称を「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」として、福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開した。

また、現淡水魚館内に希少淡水生物繁殖保全水槽を設置し、福島県内の希少淡水魚、は虫類、両生類、鳥類、哺乳類等の保全活動と調査研究を行い、情報発信に努めた。

(1) 施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター	736.00m ²
猪苗代町緑の村釣堀、養魚鑑賞池	10,000.00m ²
猪苗代町淡水魚館	605.10m ²

(2) 展示事業

- ① 福島県の淡水生物の展示
- ② 猪苗代情報パネル展示
- ③ カワセミ、カワガラス、キセキレイ展示
- ④ 希少淡水魚繁殖保全水槽
- ⑤ 県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示水槽
- ⑥ 福島県の両生類の展示水槽
- ⑦ ユーラシアカワウソの展示
- ⑧ カワネズミの展示
- ⑨ カヤネズミ他ネズミ類4種の展示
- ⑩ 国外・国内外来種の淡水水生生物の展示
- ⑪ 企画展「飼育のお仕事」、「夏はやっぱりカブトムシ」、「ワタシノウウチ」、「毒蟲展」、写真展「猪苗代のトンボ」、世界と日本のカワセミたち」実施

(3) 体験プログラム

- ① 釣り体験の実施、館内観察オリエンテーリングの実施
- ② タッチング水槽
- ③ 塗り絵コーナー、オリジナルエコバック作り、起き上がり小法師絵付け体験他ワークショップコーナーの設置
- ④ 木育キッズコーナー「森のこぼこ」

(4) 情報発信

各種展示及びホームページやTwitter等のSNSを通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水魚の繁殖・保全を来館者に対して情報発信した。

(5) ボランティア活動

- ① 釣り堀運営支援
- ② 館内解説補助
- ③ 来館者の参加体験支援

Ⅱ 収益事業

1 ミュージアムショップ運営

店舗名称 ウミノス・アクアマリンショップ JOHMON 2店舗にて商品販売。

売上額139,793,179円

(令和2年度実績127,256,782円 前年度比109.8%)

2 レストランの運営

数が多く資源量の安定した魚介類を食べる運動「HAPPY OCEANS」に取り組み、オリジナルメニューの提供や、運動の趣旨及び各魚種の資源量等を記載したリーフレットの提供を行った。

(1) レストランアクアクロス

売上額26,579,460円

(令和2年度年度実績27,252,400円 前年度比97.5%)

(2) 露店 The Roten Café Breeze

繁忙期にテラス軽食販売を実施

委託料収入 180,122円

(令和2年度実績638,452円、前年度比 28.2%)

(3) 寿司処「潮目の海HAPPY OCEANS」

資源の持続的な利用をテーマに大水槽前で寿司を提供。

委託料収入438,993円

(令和2年度実績374,427円 前年度比117.2%)

3 イブニングイベント事業

コロナウィルス感染拡大防止のため実施なし。

4 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館のショップ開設

飼育展示生物をモチーフにオリジナル商品をカワセミ館で開発販売し、収入確保に努めた。

売上額7,830,984円

(令和2年度実績7,178,560円前年度比109.0%)